

授業科目	*解剖生理学実習				単位	1		
履修	必修	関連資格	栄養士 管理栄養士 栄教一種免		ナンバリング	NT11401J		
開講年次	1	開講時期	後期	該当DP	DP1-1 DP1-2 DP3-1 DP5-1			
担当教員	岡部 明仁							
授業概要	正常な生命活動の仕組みについての理解を深めるため、前期で学んだ解剖生理学及び後期で学ぶ応用生理の講義と平行して、血液・体液、循環器、呼吸器、感覚器など日常生活に必要な諸器官についての解剖学および生理学の実習を行う。							
学生が達成すべき行動目標	1. 血液、循環器、呼吸器、感覚器などの実習を通して、生命体を構成するそれぞれの臓器の基本的な構造、働きについて説明できるようになる。 2. 実験結果のまとめ、グラフ化、考察事項についての調査を通して、科学レポートの書き方を身につける。							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	90	0	0	10	100	
知識・理解 (DP1-1)			25			5	30	
知識・理解 (DP1-2)			20				20	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)								
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)			25			5	30	
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)			20				20	
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
1. 循環器、呼吸器、感覚器に関連する主な骨と筋肉の名称を言える。 2. 血液、循環器、呼吸器、感覚器など臓器について、基本的な構造と働きについて説明できる。 3. 実験結果について、独力で考察事項を考え、調査してレポートを作成することができる。				1. 循環器、呼吸器、感覚器に関連する主な骨と筋肉について、名称を聞けば大体の位置がわかる。 2. 血液、循環器、呼吸器、感覚器の基本的な役割を把握している。 3. 実験結果をグラフ化することができる。 4. 科学レポートの体裁に従ってレポートを書くことができる。				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)

1	感覚器実習 1 皮膚の感覚器、皮膚の組織観察	講義及び実習	レポート作成	45
2	感覚器実習 2 味覚閾値の部位差、舌の組織観察	講義及び実習	レポート作成	45
3	最大酸素摂取量 1 踏み台昇降運動、自転車エルゴメーターの体力測定モード	講義及び実習	レポート作成	45
4	最大酸素摂取量 2 自転車エルゴメーターによる三段階負荷法	講義及び実習	レポート作成	45
5	循環器実習 1 毛細血管の観察、指尖脈波、パルスオキシメーター、心音	講義及び実習	レポート作成	45
6	循環器実習 2 血圧・心電図の測定	講義及び実習	レポート作成	45
7	バーチャルスライドによる組織観察 消化器系及び神経系	講義及び実習	レポート作成	45
8	上皮組織の観察 1 -重層扁平上皮、単層扁平上皮、移行上皮-	講義及び実習	レポート作成	45
9	上皮組織の観察 2 -単層立方上皮、単層円柱上皮、多列線毛上皮-	講義及び実習	レポート作成	45
10	フリッカー検査 1 ークレペリンテストー	講義及び実習	レポート作成	45
11	フリッカー検査 2 ーPC または書写ー	講義及び実習	レポート作成	45
12	・フリッカー検査 3 データ整理と t 検定による検証 ・バーチャルスライドによる眼球の構造観察	講義及び実習	レポート作成	45
13	・ギムザ染色による血球観察 1(バーチャルスライドによる観察)	講義及び実習	レポート作成	45
14	ギムザ染色による血球観察 2(ヒト塗抹標本を用いた顕微鏡観察)	講義及び実習	レポート作成	45
15	総まとめ:実習レポートのまとめを行う。	講義	全体の復習	30
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				

25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・前期開講の解剖生理学、後期開講の応用生理学で使用している教科書「系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能」を用いて、まず調べる。そこで不明なところをインターネットを用いて検索する。 ・インターネットでの検索の仕方 			
テキスト	青峰正裕他 イラスト解剖生理学実験（東京教学社） 坂井建雄他 系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能1（医学書院）			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	教科書その他、それぞれの実習に即したプリント等を配布する。 坂井建雄他監訳「プロメテウス 解剖学アトラス」(医学書院) 小澤澗司他監修「標準生理学」(医学書院) 藤田恒夫他著「標準組織学 総論」「標準組織学 各論」(医学書院) 坂井建雄他訳「カラーアトラス 顕微鏡写真で見る細胞組織学」(メディカル・サイエンス・インターナショナル)			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回のレポート作成にあたって、最も重要なことは教科書に書いてあることを探し出すこと。次に参考書、インターネットによる情報検索などによる、関連した学習課題についての自己学習が必要となります。 ・実習は一期一会です。極力欠席することがないように努力してください。実習を欠席するとレポートの作成ができないため、その実習のレポート点および出席点が無くなります。気を付けてください。 			
達成度評価に関するコメント	提出されたレポートの評価にあたっては、オリジナリティー、グラフの描き方、学習意欲、レポートが他人に読まれることへの意識の有無などを主な評価対象とします。 他人のレポートをコピーしたことが判明した場合は、カンニングとみなしますので十分注意してください。 全て出席しレポートを全て提出した場合を10点とします。			

